

# 飲酒の薬剤への影響に関する認識度調査



福島県開局 株式会社 メディカル・コア  
 齊藤賢一 佐藤美緒 長谷川重 佐藤幸 鍛冶内 大輔 紺野明子  
 佐藤隆 佐藤博美 柳沼久美子 古城杏子 小畑信子 田口章

## 目的

近年の健康ブームの中、患者から嗜好品と薬の関係について質問を受ける機会が多くなり、特に飲酒に関する質問が多い。そこで患者の飲酒の有無と薬への影響に関する認識の調査を行った。

## 調査方法

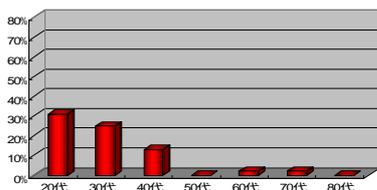
ふたば薬局 4店 (福島市2店 伊達市1店 伊達郡1店) のアンケート記入方式により行った。

調査期間 平成18年1月の2週間を中心

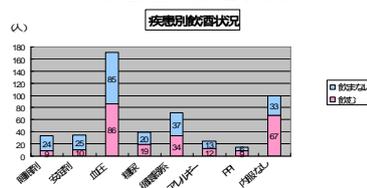
対象 20代 - 80代 男性209名、女性219名

## 飲酒状況 (3)

ストレスの発散



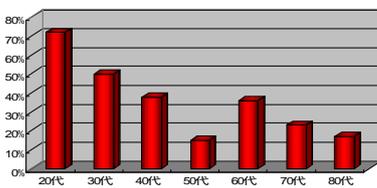
## 疾患別の飲酒状況



• 睡眠剤や安定剤服用者は飲酒に気をつけている

## 飲酒状況 (4)

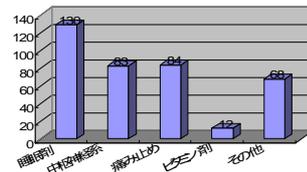
付き合い



• 付き合いでの飲酒は年代を追うごとに低下傾向

## 影響があると答えた方への質問

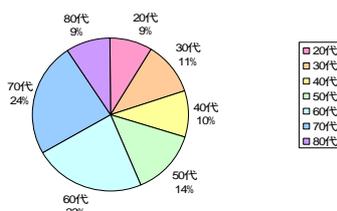
どのような薬剤に影響があると思うか (複数回答可)



• 睡眠剤に影響があるとの回答者が多かった。

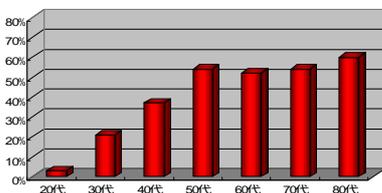
## 年代別回答状況

年代別回答者数 (総数 428人)



## 飲酒状況 (5)

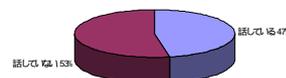
毎日定期的に飲酒する



• 毎日飲酒する傾向は高年齢層が多い

## 医師に飲酒状況を話しているか

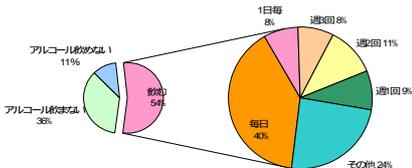
医師に飲酒状況を話しているか (飲酒者限定回答)



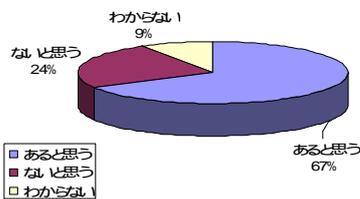
• 医師への飲酒の自己申告は半数以上されていない

## 飲酒状況

飲酒状況 (総数428人)

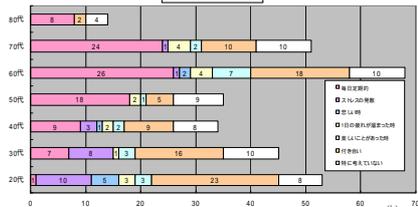


## アルコールと薬の併用で影響があると思うか



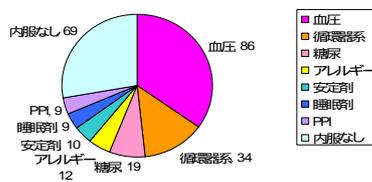
## 飲酒状況 (2)

どんなときに飲むか



## 飲酒習慣のある方の疾患有無

疾患名 (人) (複数回答)



## まとめ

60代以上では睡眠剤を含む薬剤服用率が高く患者は飲酒状況を医師・薬剤師に伝えることが必要と考えられる。

また、私たち薬剤師が飲酒患者に対し適切な服薬指導をすることが大切である。

特に相互作用の認識がありながらもアルコールと薬剤を併用している患者に対する指導がこれからの課題である。